

共生・公正・創造



# 東日本タイムズ号外

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~JRTU-HWU/>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

## 【シリーズ32】

### 迫り来る包囲網を前に再豹変？ 新戦略？ そして反戦平和活動は！

福祉事業協会のズサンな会計処理

第2に、対談で触れられている「前顧問の逮捕問題」についてです。「背任・横領」について、鈴木氏の「組合費の横領とかそういうことがあったら、まず組合で問題にしますよね」との問いかけに前顧問は「そりゃそうですよ、だって収支決算はつきりしてるんだからね」と答えています。

確かに、組合の会計決算は監査を受け大会でも承認されています。本部の会計処理については金額も膨大であり、私には良く分かりません。しかし組合会計に絡んで言えることは、役職を離れ、組合員資格を有していないにもかかわらず「(本部所有の車を)私の公用車」と公言して憚らないこの一語に、いかに前顧問が組合組織を私物化してきたかということの極一部分です。

しかし「背任・横領」と言われている問題の本質は、東労組の会計にかかわる問題ではありません。福祉事業協会、さつき会、さつき企画の金にかかわる問題ではないでしょうか？...略

改善報告書8、これまでのさつき会財政運営に対する意見(事務局長報告)では、役員体制の不備という条件もあり、明瞭性を欠く会計処理がなされてきた。

資金の支出や運用に際し、会計の全貌を知るものが誰もいない状態のまま、必要に迫られた処理が行われてきた。

その後の会計処理もずさんで、帳簿類が未整理であったばかりか、各種預金口座の便宜的な使用により収支や資産状態が極めてわかりにくい状態にあった。

と何もかにもがデタラメであったと報告しています。ところが驚くことに、何もかにもデタラメにやってきた「先輩諸氏の労苦に頭の下がる思い」と惚けたことを言い、「規則や法令に違反する行為が一切認められなかった」と結論付けています。

まともな感覚で考えたら「規則や法令に違反する行為があった」と疑うのが常識であります。

しかしことさらに「規則や法令に違反する行為はなかった」と結論付けなければならぬところにダーティーな部分を感じないわけにはいかないのです。しかも事業協会に「資産を引き渡し」さつき会を「解散する」としています。臭い物に蓋を閉め、闇から闇に葬り去ろうということです。

次に「さつき企画」の問題に関することでもあります。「さつき企画」は松崎前顧問の長男である篤氏が社長に就任しておりました。篤氏は前顧問の子息であり、さつき企画の立ち上げの経緯からすれば、篤氏が社長に就任すること自体が公私混同であり、おかしいといわざるを得ません。

「さつき企画の経営再建のためのご協力をお願い」の社長は奈良剛吉(現本部顧問、当時東労組本部副執行委員長)となっております。篤氏は期日は定かではありませんが2003年末から2004年初に社長を辞任したと思われます。

「さつき会」からの5000万円の債権は篤社長時代のものであります。

権力の側がJR総連・東労組を破壊するために攻撃をかけてきている、そのことを許すわけにはいきません。そしてその攻撃の焦点が松崎前顧問にあるのでしょうか。しかしそうだからと言って労働者組織の財産を横領しても良いとはなりません。

< JR東日本労政『二十年目の検証』212ページから215ページより抜粋 >

# 民主化の声・声・声・・・

2005.12.28 その32

## (読んではいけない?) 「小説労働組合」の読み方! (12)

～佐藤正雄氏失踪事件と、さつき会経理偽装問題～



\*「椿会」の臨時総会は終わった。散会のあと、評議員は帰ってから自分の地方組織にどのように説明をするのか心配になった。三々五々、最寄りの駅へ向かう道すがら会話が続いた。「疑問も意見もいっぱいあったけどさ。とても発言する雰囲気じゃあなかったから日和ってしまった。今日の会議は大元が椿会の金を、ごく一部の者だけで保管し運用し、勝手に使っていたことをインペイして、評議員会の名においてウヤムヤのまま処理してしまおうという狙いがミエミエだったな」「それにしても、椿会の会計はひどいな。30億円の保管も使用もめちゃくちゃだ。報告では資金を増やすために株、投資、外貨預金などもやっていた。何処の場で承認したのか。誰が何にどれくらい使っていたのか分からないなんて、そんなことあるわけないだろう。知っているのは歴代の会長に決まっている」「責任者は、長期間会長をし、その後もずっと椿会を牛耳っていた大元と金庫番の武藤だ。二人が資金を自由にしていたし、内容についても一切明らかにしてこなかった。二人だけでうまくやれると思っていたんだらうが、警察の動きもあり先行きが危なくなっただので、慌ててフタをしようとしているのだろう。それくらいはみんな知っているさ」「旧運転労組の組合員と組織のために、資金の使い方と責任の所在を明らかにするべきだよな。ボクも喉まで出ていたがそれが言えなかった。言えれば何をされるかと怖じ気づいてしまった。このままでは大元らの組織資金流用の共犯になっちゃうな。気が滅入るなあ」「役員側の威圧に屈した自分が情けない。これで大元らは個人としての責任を逃れ、尻ぬぐいは評議員会全員の責任にさせられたんだよな」最寄りの駅までには、もう暫く歩かなければならない。話し合っているうちに今日の会議の重大さに改めて気が付いた。次第に足取りが重くなっていた。(p.164～166)

東労組の組合員が配っている本であり、解説書まで出回っているわけであるが、告訴好きの団体のことを考え個人名は極力避けると、おそらくこの文脈の読み方は次のとおりであろう。

【椿会(さつき会)の臨時総会は終わった。今日の会議は大元(M氏)がさつき会の金を、ごく一部の者だけで保管し運用し、勝手に使っていたことを隠蔽して、評議員会の名においてウヤムヤのまま処理してしまおうという狙いがミエミエだったな・・・「責任者は、長期間会長をし、その後もずっとさつき会を牛耳っていた大元(M氏)と金庫番の武藤(S氏)だ。二人が資金を自由にしていたし、内容についても一切明らかにしてこなかった。警察の動きもあり先行きが危なくなっただので、慌ててフタをしようとしているのだろう」「このままでは大元(M氏)らの組織資金流用の共犯になっちゃうな。気が滅入るなあ】

小説があまりにもリアルなので解説の必要もないが、このころの、嶋田たちのホームページなどが「疑問点未説明のままの『さつき会解散に反対』と事実を裏付けている。

民主化の声・声・声・・・ (続く)